

仕事人秘録

SOHO静岡に入居してくれたベンチャーの経営者は目を輝かせていた。

やっぱりモチベーションが高いですね。何かを創り出そうという気持ちです。朝から夜遅くまで働いています。頭の下がる思いです。どうしても支援という「上から目線」になりがちですが、私たちも同じ目線で当事者になって話を聞き、一緒に考えることを心がけました。

外部の人を巻き込もうと講演会や交流会も開きました。ベンチャーという若い人が一生懸命に取り組むものだと思っていました。が、シニアの起業家もいましたし、子育て中の女性もいらっしやいました。そつ

行列のできる経営相談所 ⑭

富士市産業支援センター長
小出 宗昭氏



自らの育児からスリングに興味を持ち、主婦起業した園田正世社長

抱っこひも起業 驚き連続

自らの育児からスリングに興味を持ち、主婦起業した園田正世社長

しながらの起業は簡単ではないと思っていました。ベビースリングのビジネスが有望かどうかの確信も持てませんでした。

ところが、園田さんの話を聞いてすぐに打ちのめされました。すでに月商が70万円程度あるというのです。いつしか「すばらしいですね」「すごいですね」と褒め言葉を連発している自分がいました。そして園田さんのビジネスは順調に成長し、テレビ番組にも取り上げられて全国区に、「ウー

した人たちのお役に立てばと、私自身も土日も関係なく働きました。

たころに転機が訪れる。地元のフリーペーパーの編集者からある女性を紹介されました。園田正世さんです。2人の小さなお子さんとおなかの中にはもう1人いました。園田さんは「北極しろくま堂」という会社を立ち上げて米国からベビースリング（抱っこひも）を個人で輸入販売していることに集中しました。

田さんのお手伝いをしたいと思い、「何かあったら相談に乗らせて下さい」と話したのを覚えています。

半年後、園田さんが再び小さい赤ちゃんがすぐくくと育つように小さな会社を成長させていきました。園田さんはいま、当センターのゲストアドバイザーとして次なる「北極しろくま堂」の誕生に向けてお手伝いをして頂いています。

静銀の先輩は「そこまでしなくても」と気にかけてくれましたが、私の人生観や職業観はもう大きく変わっており、徹底的にお手伝いすることに集中しました。

開所式から半年を過ぎました。正直なところ子育て

園田さんのお話を聞いて、私も「北極しろくま堂」の誕生に向けてお手伝いをして頂いています。

園田さんはいま、当センターのゲストアドバイザーとして次なる「北極しろくま堂」の誕生に向けてお手伝いをして頂いています。